

短大特任教員教育研究業績書

平成 30年 5月 6日

氏名	ふりがな	所属	職位	性別
森脇 環帆	もりわき たまほ	保育学科 通信教育課程	教授・准教授・講師 助教	男・女

担当科目名

造形表現 I、造形表現 II

学歴

和暦(西暦)年 月	事項	学位
平成9(1997)年3月	女子美術大学 絵画科 洋画専攻卒業	学士(芸術)
平成12(2000)年3月	筑波大学大学院 芸術研究科 洋画専攻(修士課程)修了	修士(芸術学)
平成28(2016)年4月	明治大学理工学研究科 新領域創造(博士後期課程)入学在学中	

教育歴・職歴

名称	期間	教育内容又は業務内容
学校法人沼田学園 土浦情報経理専門学校	平成10年4月～13年3月	フラワービジネス科 非常勤講師
アーティスト活動、絵画教室 主宰	平成13年4月～27年5月	防災まちづくりとアートをテーマに、東京都、アサヒビール株式会社等の支援を受け、国内外で作品を発表。
一般社団法人 子ども安全まちづくりパート ナーズ	平成27年6月～現在	研究員として科学技術振興機構(JST) 研究開発成果実装支援プログラム「国際基準の安全な学校・地域づくりに向けた協働活動支援」プロジェクトに参加。理事、事務局長。
学校法人明治大学	平成28年4月～現在	明治大学まちづくり研究所リサーチアシスタント
学校法人三幸学園 小田原短期大学	平成30年4月～現在	保育学科通信教育課程 助教

所属学会等

名称	活動期間	活動内容(役職等の活動を含む)
NPO 法人向島学会	平成27年5月～現在	理事
一般社団法人子ども安全ま ちづくりパートナーズ	平成27年6月～現在	理事、事務局長
一般社団法人日本建築学会	平成28年2月～現在	会員

社会活動等

名称	活動期間	活動内容
特記事項なし		

担当教科目に関する資格・免許等

名称	取得年月	取得機関
特記事項なし	年 月	
	年 月	

研究実績に関する事項

代表的な著書、論文 等の名称	単著 共著 の別	発行又は発表 の年月	発行所、発表雑誌 又は発表学会等の 名称	概要
(著書) キツネを探せ in 陸 前高田	単	平成27年11月	ツマムレプロジェ クト in 陸前高田実 行委員会	東日本大震災の被災地陸前高田市でアーティスト および実行委員長として開発・実践したプログラ ム「キツネを探せ in 陸前高田」はアートを用いて 楽しみながら子どもが避難経路を学ぶもので「逃 げ地図」を活用し、「キツネ」面の眼球に小型カメ ラを装着してタブレット端末に配信された目線映 像を頼りに避難路上にいる「キツネ」を探すとい う防災とアートをミックスしたプログラムであ

				る。この内容と成果を英訳付きでまとめた。
(学術論文) 居住5年目を迎えた岩手県陸前高田市仮設住宅における被災者の暮らし、被災住民のエンパワメント形成支援による地域再生の可能性と課題	共	平成28年3月	現代福祉研究第16号	災害から5年経過した陸前高田市は、復旧復興工事が進行中で、平日には大型車両が頻繁に通行し危険な状況にあることから、日々変化する地域の状況を定期的に確認するとともに、災害時活用できる井戸や地域独自の屋号の由来を再認識することで地域社会を見直し、安全に暮らすための方策として防災アートプログラムを開発・実施した経緯と今後の改善策について論じた。 宮城孝・森脇環帆・仁平典宏・山本俊哉・藤賀雅人他 pp16-18
津波からの逃げ地図を活用した防災アートプログラムの開発とその評価(査読付)	共	平成30年2月	日本建築学会技術報告集	逃げ地図を補完するために開発した防災アートプログラムの、開発経緯と内容を明らかにし、その評価を考察した。防災アートPGは、高台への避難行動の体験や災害履歴を含む地域の歴史文化の伝承を促進するために、「まちで遊ぶ」「地域を知る」「感覚的な変動を得る」をアート表現の3本柱としたことを明らかにした結果、防災PGに楽しさや親しみやすさが増し、防災に対する関心が高まっていたことや災害時に慌てず行動できる人が増加したことが明らかになった。森脇環帆・重根美香・山本俊哉
(口頭発表) 陸前高田市における逃げ地図を活用した防災アートプログラムの開発と試行	共	平成28年8月	日本建築学会大会(福岡大学)	陸前高田市では、地元住民により津波からの「逃げ地図」が作成されたが、子ども達は地図で示した避難経路を歩いた経験に乏しく、地域の歴史や文化を伝承していない課題が指摘されていたことから、地元の研究協力者から避難場所に通じる情報や伝承すべき要素をヒアリングして「逃げ地図」に落とし込み、アートの側面から「まちで遊ぶ」「地域を知る」「感覚的な変動を得る」プログラムを開発し、得られた成果と課題について考察した。 森脇環帆、山本俊哉、山中盛、木下勇
下田市立朝日小学校における逃げ地図の作成・活用プログラムの試行	共	平成28年8月	日本建築学会大会(福岡大学)	「逃げ地図」作成ワークショップは、世代間・地域間の連携を促進するリスク・コミュニケーションのツールとしての役割が期待されていることから、静岡県下田市立朝日小学校の6年生を対象にいくつかの新たな試みを加えた「逃げ地図」の作成・活用プログラムを実施し、その試行の経緯と内容、成果を明らかにした。 山中盛・森脇環帆・山本俊哉・木下勇
下田市における逃げ地図を活用した防災アートプログラムの開発と試行	共	平成29年9月	日本建築学会大会(広島大学)	陸前高田市で実施した「逃げ地図」を活用した防災アートプログラムを改善し、静岡県下田市で試行した。すなわち、プログラム設計の手順とアートを加味した三本柱は継承しつつ、津波の災害リスクの特性を感覚的に理解させ、避難時間の要素を組み込み、ゲーム性を付与したプログラムを開発したことを明らかにした。 森脇環帆・重根美香・山本俊哉・木下勇
下田市における逃げ地図を活用した防災アートプログラムの評価	共	平成29年9月	日本建築学会大会(広島大学)	下田市で試行した防災アートプログラムに参加した、中学生のアンケート調査から評価を行った結果、防災にアートの要素を組み入れることで、楽しさ・親しみやすさが増し、防災に対する関心

				が高まった。また、実際に避難を想定したまちあるきをゲーム感覚で行うことで、災害時に慌てず行動できる生徒が増加したことを明らかにした。 重根美香・森脇環帆・山本俊哉・木下勇
下田市立朝日小学校における逃げ地図を活用した防災アートプログラムの開発（発表予定）	共	平成30年9月	日本建築学会大会（東北大学）	逃げ地図づくりWSを毎年実施している下田市立朝日小学校において、災害リスクのイメージの喚起と児童の自己有用感の向上を図るため、新たに避難行動要支援者の対応に関するクロスロードゲームの要素を組み込んだ防災アートPGを開発し、その設計方法と実施内容を明らかにした。 森脇環帆・本間研一・山本俊哉・木下勇
下田市立朝日小学校における逃げ地図を活用した防災アートプログラムの評価（発表予定）	共	平成30年9月	日本建築学会大会（東北大学）	下田市立朝日小学校で実施した防災アートPGに参加した児童にアンケートを実施し評価を行った。その結果、当該PGが児童のリスクコミュニケーションの促進と自己有用感の向上に繋がる効果が認められた。ただし、当該PGのみでは十分な効果は発揮せず、逃げ地図づくりWSと適切に組み合わせることで相乗効果が期待できることが明らかになった。 本間研一・森脇環帆・山本俊哉・木下勇
（ポスターセッション） Development and practice of the regional security program which takes into account the elements of the Art（査読付）	共	平成27年11月	The8th International Safe Community Conference（タイ）	アートは、表現者と鑑賞者が相互に作用し合うことで精神的・感覚的な変動を与える活動であり、地域の安全プログラムを広く普及するにはアートの要素を加味することが有効であることから、津波からの避難の安全に関するアートプログラムを開発して実践したところ、参加者からは楽しみながら学べ、アートは防災や安全に役立つという高評価を得たことを英語でまとめて発表した。 Tamaho Moriwaki, Hiroki Watanabe, Yuki Ohira
Development and practice of the regional security program which takes into account the elements of the Art（査読付）	共	平成29年10月	The9th International Safe Community Conference（セルビア）	アートの要素を加味した子ども向けの津波避難学習プログラムを開発し、東日本大震災の被災地で実践したが、子どもの参加者が少なく、課題も残った。そこで、津波のイメージやリスクの理解に乏しい地域でも展開できるように改善した津波避難学習プログラムの内容と、そのプログラムに参加した子どもからの評価を明らかにした。 森脇環帆・町井智彦・山本俊哉・重根美香
（招待講演） 国際会議 "Such die Füchsin Weg vom Tsunami!"	単	平成30年3月	7 Jahre danach: Gedenken an die Katastrophenopfer in Japan（ドイツ）	東日本大震災発災7年目に際し、被災地における子どもをとりまく物理的環境や、アートを用いた災害対策の取り組みの現状をドイツで講演した。
（団体展） 「あいされるヒトの作り方」（審査付）	単	平成22年5月	第63回女流画家協会 会展（東京都美術館）	テンペラ画F100
「両手でたべる」（審査付）	単	平成23年5月	第64回女流画家協会 会展（上野の森美術館）	テンペラ画F50
「流れる雨」（審査付）	単	平成24年5月	第65回女流画家協会 会展（東京都美術館）	テンペラ画F120
（個展）	単	平成27年8月	岩手県陸前高田	【キツネを探す子ども向け防災アート】

「キツネを探せ！ in 陸前高田」			市、広田小学校周辺	キツネを探すことで、避難路や地域の歴史を学ぶことができる防災アート。「キツネ」面の眼球に小型カメラを装着して参加者の持つタブレットに送信される目線映像を頼りに「キツネ」を探し出す。東日本大震災で被災した子ども達向けプログラム。
「ツママレ in オッテンゼン TSU・MA・MA・RE in Ottensen」	単	平成 28 年 7 月	モッテ地区文化センター、オッテンゼン地区資料館とその周辺（ドイツオッテンゼン地区）	【ドイツで日本の雨水を飲むかを問う参加型のアートパフォーマンス】 墨田区向島とオッテンゼンの地区交流 25 周年を記念し、向島の雨水を飲むかを問う「キツネの茶会」を行った。また、向島における防災アートプロジェクトの歴史と「ツママレ」の事例を紹介し、両地区の市民文化交流がもたらした影響と効果を共有するシンポジウムと展示を行った。協賛：野村財団
「ツママレプロジェクト「キツネを探せ in 下田中学校」」	単	平成 28 年 10 月	下田市市民会館及び下田市 1 丁目周辺	【キツネを探す中学生向け防災アート】 キツネを探すことで、避難路や地域の歴史を学ぶことができる防災アート。2016 年に被災地陸前高田で開発したプログラムをベースに、東日本大震災の教訓を伝え備えるために開催した。主催：下田市立下田中学校
「ツママレプロジェクト「キツネを探せ in 遊ぼう祭」」	単	平成 28 年 10 月	Nanz Village 及び下田市 1 丁目周辺	【キツネを探す親子向け防災アート】 「キツネを探せ in 下田中学校」と概要は同じだが、特に親子で協力してミッションを行い、最終的に高台に隠れるキツネを探す。過去の津波高や高台周知の他、親子でのリスクコミュニケーションのきっかけを作ることが目的。NHK の番組、「あさイチ」に取り上げられる等、全国的に話題をよんだ。主催：下田遊ぼう祭 2016 実行委員会
「ツママレプロジェクト「キツネを探せ in 下田朝日小学校」」	単	平成 29 年 9 月	下田市立朝日小学校及びその周辺	【キツネを探す小学校の防災授業】 キツネから送られた手紙を手がかりに、まちを歩きまわり、高台に隠れるキツネを探す、学校防災教育に防災アートを取り入れた試み。まちでは津波時避難困難者を想定した足の悪い老人（PTA 役員）を配置し、こども達と大人が考え、行動するリスクコミュニケーションのきっかけを作った。主催：下田市立朝日小学校
その他（表彰等）	平成 22 年 5 月	第 63 回女流画家協会展 入選（東京都美術館）		
	平成 23 年 5 月	第 64 回女流画家協会展 入選（東京都美術館）		
	平成 24 年 5 月	第 65 回女流画家協会展 入選（東京都美術館）		
	平成 29 年 3 月	総務省消防庁 防災まちづくり大賞 消防庁長官賞 「大震災の経験を活かした自前の電源・避難場所の確保と避難地図の見直し」		
	平成 30 年 5 月	2018 年日本建築学会教育賞（教育貢献） 「逃げ地図づくりを通じた世代間・地域間のリスク・コミュニケーションの促進」		